

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	10	学校名	県立太田第一高等学校				課程	定時制		学校長名	鈴木 清隆					
教頭名	[全日制] 安島 尚毅			[定時制] 茂又 孝裕			[附属中] 岡部 英昭			事務室長名	佐藤 総英					
教職員数	教諭	66	養護教諭	3	常勤講師	2	非常勤講師	7	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	9	計	98
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	0	0	2	1	3	1	4	0			4				

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する起業家となる基礎を育む学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する意欲のある生徒を育成する。 ○誠実で主体的、協動的に行動できる生徒を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○思いやりの心を育成し、生徒が他者の気持ちになって考え行動することができるようにする。 ○生徒が発表する機会を確保し、生徒が知識を基に考え判断し表現することができるようにする。 ○自律心・責任感を育成し、生徒が集団の中で協動的に行動することができるようにする。 ○自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力を育成し、社会で活躍することができるようにする。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○学校や社会の規範を守り、さまざまな年齢の人と協力して日常生活を送ることができる生徒を募集する。(安定した生活の継続、幅広い年代の方との学び合い) ○ものごとくに粘り強く取り組むことのできる生徒を募集する。(4年間の通学、仕事との両立) ○授業、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒を募集する。(主体的・積極的な学び)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が定着していない生徒が見られる。また、教科によっては学力に個人差がある。 学習意欲が低く、学習に取り組む習慣が身につけていない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別課題やICTの活用等、授業の工夫・改善を行い、生徒に興味・関心を持たせることで学習意欲を喚起し、基礎学力を定着させる必要がある。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の8割以上が就職希望であるが、勤労観、職業観が十分に形成されていない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育における基礎的汎用的能力を育成する取組を行い、望ましい勤労観・職業観を育成する必要がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 欠席しがちな生徒や、挨拶・時間を守る等の基本的な生活習慣が身につけていない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や学校外の方々との連携により、生徒の自律心や公共心を育成する必要がある。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動等に熱心に取り組む生徒が増えている一方で、参加意欲に乏しい生徒も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働作業などを通して責任感や協調性を養う必要がある。また、キャリアパスポートの活用などにより、自らの課題を発見させ、自主的・自発的な活動を促す。
働き方改革への取組	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の超過勤務時間は、前年度に比べて大幅に縮減されておりおおむね良好であるが、休暇取得日数が平均8.1日とやや少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に寄り添う指導を行うため、きんむ君の活用等により、校務の効率化を図る。また、ワークライフバランスの実現のために休暇の取得を勧める必要がある。

5 中期的目標

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 思いやりの心を育成し、他者の気持ちになって考え、行動することができるようにする。 (2) 自らの知識を基に考え、判断し、表現することができるようにする。 (3) 自律心・責任感を育成し、集団の中で協調的に行動することができるようにする。 (4) 自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力を育成し、卒業後、社会で活躍することができるようにする。 (5) ICTを効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。 (6) 生徒一人一人に寄り添う指導の実現に向けて、業務の効率化を進め、超過勤務時間の縮減を図る。 (7) 家庭との連絡を密にし、保護者との協力関係を構築する。 |
|---|

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 他者の気持ちになって考え行動することができる生徒の割合	・教育活動全体を通じて道德教育を行うことにより、「他の人の気持ちになって考え行動することができる」と答える生徒の割合 80%を目指す。
(2) 自分の思いや考えを説明することができる生徒の割合	・授業や学校行事において、話し合いや発表の機会を設け、「自分の思いや考えを説明することができる」と答える生徒の割合 80%を目指す。
(3)-1 社会のルールやマナーを守っている生徒の割合	・HR 活動や各種講話、学校行事において規範意識を高める機会を設け、「社会のルールやマナーを守っている」と答える生徒の割合 80%を目指す。
(3)-2 学校行事への参加率	・教育活動全体での意識的な協働作業を通して、協調性や責任感を醸成することにより、学校行事への出席率 80%を目指す。
(4) 就職希望生徒の進路決定率	・効果的な個人面談やキャリア・カウンセリング(「キャリア・サポート」の活用)を行うことにより、就職希望生徒の進路決定率 100%を目指す。
(5) 授業における生徒のタブレット活用率	・授業において生徒がタブレットを活用する場面を設けることにより、授業において「タブレットを有効活用できた」と答える 1・2年生生徒の割合 80%を目指す。
(6) 平均超過勤務時間数・休暇取得日数	・校務において ICT を積極的に活用することにより、一か月平均超過勤務時間 20 時間以内を目指す。また、休暇取得日数を平均 10 日以上にする。
(7) 学校の様子が伝わっていると考える家庭の割合	・保護者面談の実施・定時制だよりの発行・Web ページの更新により、「学校の様子が家庭によく伝わっている」と答える保護者の割合 80%を目指す。